

## 令和2年度（2020年度） 自己評価結果表

令和3年3月31日  
社会福祉法人ふじみ野会  
子どものそのBaby保育園

子どものそのBaby保育園は、産休明けの0歳児から2歳児まで、定員30名の小さな保育園として、2003年（平成15年）に誕生しました。

2006年には子育て支援センターも増設して、一時保育と共に地域社会の大事な公共的な施設に育ちました。2015年増改築をおこない、乳児保育園から定員80名の保育園に生まれ変わりました。

本法人は、ふじみ野市の子どものその幼保連携型認定こども園・子どものその苗間保育園の3園を運営しています。3園が下記の保育理念と保育目標を掲げ、子どものそのグループとして連携し、学び合いながら保育を行っていきます。

### 【本園の保育目標】

#### わたしたちの願い（保育理念）

豊かな自然	自然の中でのびのびと子どもを育てます
あたたかな人間関係	おとなの愛情と仲間の中で子どもを育てます
ほんものの文化やあそび	豊かな文化やあそびの中で子どもを育てます
地域とともに	園と家庭、地域がいっしょになって子どもを育てます

#### 私たちのめざす子ども像（保育目標）

- ◎友だちと思いきりあそび、自分の気持ちを素直に表現でき、人とつながって生きていく子ども
- ◎何にでも興味・関心を持ち、自分でやってみようとする子ども
- ◎失敗を恐れなくて挑戦し、仲間とともに学び、その経験を生かす子ども
- ◎あそびの中でからだを動かす楽しさが分かる子ども
- ◎生活習慣を身につけ、健康な生活ができる子ども

### 【本年度、重点的に取り組む目標・計画】

新型コロナウイルス感染が昨年度末から広がり感染対策を考えながらも子どもたちの成長を妨げないように今できることを考え実践してきました。

緊急事態宣言中の登園自粛期間に仲間の存在が子どもたちの成長に欠かせないことを実感しました。行事も制限のある中どう楽しく有意義なものにするかを考え取り組みました。乳児においては大人のマスク着用が発達への影響を考え感染対策と保育の充実の両立を考えました。

## 【振り返りと自己評価】

### 1, コロナの中での保育内容について

緊急事態宣言の中登園自粛となり少ない人数で新学期がスタートをしました。乳児にとっては担任としっかり関わり、ゆったりと保育が行えました。幼児は人数が少ないため、穏やかに過ごしたものの、集団あそびにもならず、友達存在の大きさを子どもも職員も実感しました。休んでいる子に電話をし、ホームページであそびの紹介や野菜の苗植えの様子などを発信しました。

大人が感染対策を講じながらも、子どもは心も体も寄せ合い触れ合いながら育つことが大事だと考え出来るだけ子どもの生活は変えることなく行ってきました。

行事については今までと同じく出来た行事はなく中止。または、感染対策をとりながら変更・縮小して行いました。保護者参加の行事はほとんどを保護者1名にしました。また集会や行事中は窓を開け、換気を行いました。集会や行事後には換気とアルコール消毒を行いました。また、おとなのホールで行うときのおとなの席はマットを間隔を空けてあらかじめ敷いておきました。

### 2, 保育内容について

#### (1) 乳児

季節の制作など自分で理解できない乳児期の制作をどう考えるのか実践を通して見つめなおしました。大人がきれいに季節の装飾を作るより子どもが関わって作ったものが飾られる方が季節や行事を身近に感じられるのではないかと。など乳児期の制作の導入の仕方や大事にしたいことなどを話し合いました。

#### (2) 幼児

散歩で捕まえてきた昆虫などをクラスで飼うがすぐに飽きてしまう。おもちゃのように遊んでしまうなどどうやって、飼うこと、命を大事にすることを伝えたら良いのかなどを話し合いました。倫理として言葉で伝えるより、おとなが大事に飼育し、子どもと一緒に観察したり親しんでいくことで思いやりややさしさ、命を感じてほしいなど話し合い、実践に繋げています。

絵画の取り組み思いを描くこと、表現する事を大事にしたい。色への興味と線描きで描くことをどう考えていけば良いのか実践を通しながら考えました。

### 3, 保育内容の周知と保護者との関わり

毎月各クラスからその月の保育の内容と到達点を子どもの姿から報告と、来月の保育計画をプリントにして配布しています。その月の子どもたちの様子や園の様子、伝えたいことなど園だよりとして配布しています。その他各クラスからその日の様子をクラス新聞として発行しています。送迎時に直接話をするなどコミュニケーション

ョンをとるよう努めていますが、感染対策のため園内の滞在時間を短くするなどのため、思うようにいきませんでした。それにより、園の子どもの様子を伝えきれずコミュニケーションの不足を感じることも多くありました。

#### 4, 給食と保育

多様な食物アレルギーの対応にあたり、アレルギーの子の給食をお盆を替え、誤食防止にとりくみました。

クッキング保育などは感染防止から実践が難しかったです。

箸の持ち方など栄養士から子どもたちに指導してもらうことをやりました。

#### 5, 職員同士の協力・連携

クラス内の話し合い、リーダー会、全体職員会議、など職員が子どもたちの様子を共有し合えるようにしています。子どもへの理解や対応を共通の認識をもって保育できるよう努めています。

#### 6, 研修の充実

園外の研修がリモートになり、研修可能な職員が限られてしまいました。今後園内でのリモート研修を受けられる環境整備が求められます。

#### 7, 健康・安全・衛生への配慮

送迎時間以外は玄関を施錠しています。

9：30以降登園の出欠確認が出来ないときは保護者に確認しています。

昼寝は子どもの顔が見えるように明るさを調節し、乳児は呼吸チェックとうつぶせ寝を防止しています。

新型コロナウイルス感染が広がってからは健康チェックを行い体調不良の早期発見に努めています。その他アルコール消毒やおとなのマスク着用を保護者にもお願いしています。

プール活動は時間と一度に入る人数を減らし消毒を毎回行いました。また、散歩先では、トイレ水飲み場使用前後の消毒を行いました。

#### 8, 地域との連携と支援

子育て支援は新型コロナウイルス感染が広がり人との関わりが思うようにいかない中、必要度は高まっていると思いますが、園内で行っている支援事業においては感染リスクが高く、子育て支援事業として人数制限など感染対策を講じての実施となりました。

## 【今後の課題】

### 1, 保育の推進

来年度も新型コロナウイルス感染が収まるとは思えないため、感染対策を取りながらも子どもたちの豊かな経験を守る方法を探して実践していきます。

### 2, 職員の研修

職員同士の意見交流、共通理解を持つこと、子どもの観方など実践から学び、時には研修し高めていきたいです。また、キャリアアップ研修も進め、スキルアップに努めていきたいです。食についても偏食や詰め込み食べなど、食に関する悩みが活動と関係していることも多くあることが実践の中で見えてきています。栄養士とともに考え、取り組んでいきたいです。

### 3, 保護者との関わり

コロナの中、日常保育、行事等不透明なことが多く、直前の決定や変更が相次ぎましたが、苦情もなく協力してもらい、保護者が子どもたちに寄り添ってくれました。

保護者の生き生きと活躍する姿を子どもたちに見せ、保護者と一緒に進めていきたいのですが、保護者の負担感に加え、感染防止のため活動が狭められていました。今後保護者と一緒にできる行事等を検討していきます。

日常的に子どもの姿を出来るだけ伝え、家庭での悩みや様子を共有できるようにしていきたいです。

以上